

（佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】）

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

P1

基本目標：1 歯科疾患の予防 (目標) 健全な歯・口腔の育成

(具体的指標) 3歳児でむし歯のない者の割合の増加

《委員名》吉住委員【佐世保私立幼稚園協会】

○ 3歳児はフッ素洗口を園で行わないため、フッ素の効果を十分に説明したうえ、歯科医院若しくは家庭でのフッ素塗布を推奨する案内を配布するよう各園に周知する。

(具体的指標)

《委員名》桑原委員【佐世保市保育会】

○ 虫歯が増えてきている原因は、歯磨きがおろそかになっているからなのか、予防や対策は歯磨きやフッ化物洗口の徹底だけなのか。食べ物の柔らかさなど、他にも改善できることがあるのかどうか。口腔の健康は発語や踏ん張る力など、子どもの発達に欠かせないことなので、家庭における正しい知識の普及にも努めたい。

(具体的指標)

《委員名》河野委員【佐世保市薬剤師会】

○ フッ化物洗口の推進が今回の(市の重点施策)目標の中にも挙がっている。薬剤師会としても学校薬剤師の方でフッ化物洗口の薬品の管理なども行っており、コロナ禍で中止になっている学校もあるということで、学校薬剤師の方も把握しておりますので、そのあたりとして色んな助言があるのではと思っている。

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 口腔状態の向上
(具体的指標)	
《委員名》大河内委員【長崎県栄養士会佐世保支部】	
<p>○ 食べる喜び話す楽しみというところで、現在、私が勤務している学校でも、未だ黙食を学生にさせているが、そのような状況下で、どうやって食べる楽しみ、話す楽しみを教える行った方がいいのかという教育現場の悩みがある。</p> <p>特に小学校の分野では、夏休みと冬休み、春休みのカルシウム摂取率の低下というものも全国の問題でもあるので、その辺をどう食育の分野と絡めていくのか、施策と絡めていくのかというのも、今後検討課題の一つになるのではないかと思う。</p>	
(具体的指標)	
《委員名》前田(梨沙)委員【市内大学生(長崎県立大学学生)】	
<p>○ 私は専門的な知識はないので、経験からお話させていただきたい。私が数年前、中学生や高校生だったころに、歯肉炎やむし歯とか、患者さんの症状の写真を見てすごく衝撃を受けたということがあった。その時に日頃の歯みがきの大切さとか自分の歯の大切さについて、すごく重要性について理解できたので、このような時期に、生徒さんが自分たちの歯についてもっと学ぶ機会があったらいいのではないかと考えている。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防

(目標) 口腔状態の向上

(具体的指標)12歳児でむし歯のない者の割合の増加

《委員名》前田(善公)委員【佐世保市小学校長会】

○ 目標達成は、継続して行っているフッ化物洗口によるところも大きいと思う。小学校においては校医の先生のご協力のもと、定期検診やブラッシング指導の実施、各月の保健指導、保健委員会の活動等行っている。今後さらに目標値を上げるためには、家庭での歯みがきの習慣化やおやつのととり方等、歯・口腔の健康について、家庭への啓発、家庭との連携が大切である。検診後の結果のフィードバックや保健だよりの発行、学校保健委員会の取組、歯みがきカレンダーの実施等、行っているが更なる取組を考えていかなければと思う。

(具体的指標)14歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少

《委員名》松永委員【佐世保市歯科医師会】

○ 歯肉炎は生活習慣が大きく関係している。
歯肉炎は小学5～6年から、日常的な歯垢の付着を伴う明らかな口腔清掃不良な児童に多い傾向がある。フッ化物洗口が普及した今だからこそ、中学以下の若年層にも歯肉疾患の予防に目を向けさせるチャンスではないだろうか。

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》末川委員【佐世保市中学校長会】	
<p>○ 中学校においては、食後(給食)の歯磨き、定期的なフッ化物洗口を(コロナ禍の一時的な中断を除いて)継続的に実施してきた。小学校からの連続性もあり、改善の方向へ向かっているのだと思われる。しかしながら、歯肉の炎症を限りなく「0(ゼロ)」に近づけていくのであれば家庭の意識向上が必要であると思われる。現在、学校保健だより、学校保健委員会、学校歯科医による歯磨き指導など積極的な取り組みが行われているが、歯・口腔の健康について学校任せになっている家庭も少なくないのが現状である。</p>	
《委員名》田中委員【長崎県公立高等学校・特別支援学校校長会】	
<p>○ <u>・定期健康診断(歯科健診)で歯肉の項目が要受診(歯肉2)となる者の割合は少ない</u> → 経過観察(歯肉1、歯垢1・2)の段階で予防に意識を向けさせるような働きかけに重点を</p> <p><u>・定期的な歯科受診(予防歯科)に対する意識の差</u> → 進学や就職で親元を離れる前(高校卒業まで)に定期受診(予防)の必要性を伝える働きかけ 成人の歯科健診受診の促進にもつながるのでは… ※本校ではコロナ感染対策により歯科検診時のブラッシング指導や歯科講話が実施されていない →本人や保護者の歯科受診に対する意識・関心の差…塾・部活動等によって後回しになる傾向</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

- ◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》田中委員【長崎県公立高等学校・特別支援学校校長会】	
<p>○ <u>・高校では昼休後に歯みがきをする環境が不十分な面もある</u> → 小中学校に比べ、昼休みの時間が短い(昼食含めて45分)、水道設備の不足(学校による?)</p> <p><u>・新型コロナウイルス流行による影響</u> → 長時間のマスク着用による口腔内の変化・口腔の清潔に対する意識の変化はないか?</p>	
(具体的指標)20歳代で未処置歯を有する者の割合の減少	
《委員名》横山委員【佐世保市医師会】	
○ 最終評価はd→Aに改善しているが受診者のほとんどが妊産婦で一般成人の割合が増えると目標値に達していない可能性あり。	
(具体的指標)20歳代で歯肉に炎症所見をを有する者の割合の減少	
○ 最終評価はd→Dと改善傾向なし。歯周病は一般成人で最も有病率の高い慢性感染症の一つで歯周病菌の内毒素が全身に拡散され動脈硬化や認知症の発症に関与していることが知られている。歯周病は歯科受診しないと早期には発見できないのではないか。歯周病の大切さも周知する必要があるのではないか。	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》 正林委員【長崎県歯科衛生士会佐世保支部】	
<p>○ P18成人歯科健診受診の低さ、また定期受診の低さの問題を解決するための環境づくり、啓蒙を行う。歯周病についての市民向けセミナーなど行うことにより、全身疾患と歯周病の関係を覚えて頂き、歯科受診の向上を目指す。</p>	

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》太田委員【佐世保市歯科医師会】	
<p>○ 全体的に成人歯科健診受診率が低いのは認知度と成人歯科健診を使うメリットが周知されていない可能性がある。何か口腔内にトラブルが出てから歯科受診というスタンスが根強いいため受診に繋がらない。</p> <p>○ 20歳代で無症状の歯肉炎に対応せず、30歳で進行し、40歳代で歯肉のトラブルが起き、症状を自覚するため受診する流れになっているから、40歳代と60歳代の結果はこのまま改善することは難しい。</p> <p>○ 20歳代に20歳代の予防の話をしてはすでに遅い。「未来の自分への健康の投資」のために、予防というのは、20歳代で対策し、しっかりと予防することで40歳代、60歳代へと繋ぐことができる。未来の高齢者になる家族への働きかけがとても重要である。</p> <p>○ 歯科関係者やその他の関係職員がお口のことを言っても、家族からの言葉とは全然違う。祖父母の末路を見て、自分の人生をどう捉えるかを40歳～50歳の男女に伝えると自分の父母に重ねて、未来を見るようになる。自分の父母や子どもたちに歯の大切さを伝えるであろう。それぞれの年代がどのような20年後を迎えるかの話を共有できるかで意識は「有事歯科受診から定期検診」へパラダイムシフトできるのではないかと考える。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》太田委員【佐世保市歯科医師会】	
<p>○ 口腔の病気とは乳幼児期から高齢期までつきまとう病気である。乳幼児期からの予防が将来かかる医療費をどれだけ削減してくれるか。その意図をほとんどの人が理解できていないことが問題の核ではないだろうか。その問題の核を打開するために、ライフステージ別に構成された「サザエさん一家」に似たアニメなどあればいいのではないか。</p> <p>例えば、乳幼児期ではむし歯や口腔機能発達不全があると歯並びに影響がある。学齢期では歯並びが悪いと歯みがきがうまくできずむし歯と歯肉炎になってしまっているなど、予防が大切で、治療が必要であっても、治療と予防で、成人期の歯周病を予防することができるというように、アニメは学習として入りやすいと思う。</p> <p>○ 口の健康のPRは歯科医師会をはじめとする団体が行うべきだが、専門職から言われたとしても、聞き流すだけで終わることも少なくない。歯科医師一人で人ひとりの人生を支えるのは難しいため、10年前から多職種連携と言われている。このPRや働き盛りの世代の歯科検診に関しても、もっと幅広い連携と口の健康が人生の何に繋がるから必要なのかを周知していくことが政策として必要と思う。</p>	

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標) 20歳代で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	
《委員名》村上委員【市内大学生(長崎国際大学学生)】	
<p>○ 口腔状態について、20歳代では、「悪化している」状況が見受けられた。自分自身、高校までは歯科健診が定期的であり、口腔内の健康に対する意識があった。</p> <p>しかし、高校を卒業して以降、自ら歯科を受診することが少なくなり、歯・口腔状態について考える機会が減った。20歳代になり、歯・口腔状態について考え、自ら歯科を受診する者は少ないことや、口腔状態に対する意識が低下していることが考えられるため、積極的に歯科を受診してもらえよう環境づくり・情報発信などが必要ではないか。</p> <p>また、18歳以上に焦点を当て、歯・口腔状態に対する意識の向上や意識の継続のために、栄養教育を含めた取り組みが必要ではないか。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標) 健全な口腔状態の維持
(具体的指標)	
《委員名》井手委員【佐世保市商工会議所】	
<p>○ 歯周病は全身の病気に繋がっていく可能性があるため、企業のトップの人達にも歯科健診について話をし、分かっていただけて、従業員の方々が受診しやすいような環境を作るといった方向に持っていく必要があるのかもしれないと感じている。例えば、働いている人達、持っている組織が歯科健診受診をキャンペーンでプッシュしてあげるのが一番行きやすいのではないかと感じる。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：1 歯科疾患の予防	(目標)
(具体的指標)	
《委員名》福田委員【長崎県看護協会県北支部】	
○ 口腔ケアをしっかりとすることで誤嚥性肺炎の低下について客観的に感じている。そこをいかに周知していくか、予防健診をどう進めていくか具体的に掘り下げて考えていくことが課題である。	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

<p>基本目標：2 生活の質の向上に 向けた口腔機能の維持・向上</p>	<p>(目標) 口腔機能の獲得</p>
<p>(具体的指標) 3歳児での不正咬合などが認められる者の割合の減少</p>	
<p>《委員名》松永委員【佐世保市歯科医師会】</p>	
<p>○ この年代ではほとんどの不正咬合は積極的な治療は不可能なので経過観察となる。 ただし上顎前突や開咬は指しゃぶりなどの「癖」の問題であることが多いので、保護者に意識させることは大切。</p>	
<p>《委員名》山口委員【佐世保市PTA連合会】</p>	
<p>○ 愛情が足りないということでは、昔からよく指しゃぶりをする原因として言われている。家庭環境を見ると、その指しゃぶりもよくわかり、共働きも多いため愛情がいかにかに大切か、寂しい思いをさせるという部分もあるとは思う。おしゃぶりを突っ込んでおけばいいやというご家庭の子どもさんを歯科医院で見ているのであれば、歯とは関係ない部分の指導ではないですけど「指をしゃぶること」によって、先で歯並びが悪くなって、その子の将来にも影響してくるということについて、保護者への情報提供としていったらいいのではないか。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

基本目標：3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健	(目標) 定期的な口腔保健サービスの推進
(具体的指標) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	
《委員名》江濱委員【佐世保市介護支援専門員連絡協議会】	
<p>○ 歯科健診も含めた口腔ケアということをお口は大事ですよと言われて久しいが、なかなか介護職、或いは家でいらっしゃる方はご家族の介護ということもあるかもしれないが、例えば食事や排泄であったり、そういった介護の場面からすると口腔ケアというものがどこまで優先順位が高いのかと感じる。口が汚れていると誤嚥性肺炎を起こしたりするリスクも上がるが、なかなかしっかりとした口腔ケアが行き届いている施設、高齢者施設であってもそういったところが十分どころばかりではないところもあると感じている。</p> <p>例えば、介護職員向けのそういった啓発系も、オンライン研修会も行ってもらっているが、もう少し、広く深く啓発が必要かなと感じている。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

<p>基本目標：3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健</p>	<p>(目標) 定期的な口腔保健サービスの推進</p>
<p>(具体的指標) 障がい児でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加</p>	
<p>《委員名》松永委員【佐世保市歯科医師会】</p>	
<p>○ 障がいの種類や程度が様々。術者の専門的なスキルが必要なため、対応可能な歯科医師が少ないのかもしれない。</p>	
<p>(具体的指標) 障がい者でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加</p>	
<p>《委員名》正林委員【長崎県歯科衛生士会佐世保支部】</p>	
<p>○ 障がい者の方の口腔ケア、治療についての問題について。総合病院などで治療やケアができるのはごく一部。コロナ禍も問題があるが、ケアや治療ができる環境の整備が必要と実感。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

<p>基本目標：3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健</p>	<p>(目標) 定期的な口腔保健サービスの推進</p>
<p>(具体的指標) 障がい者でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加</p>	
<p>《委員名》里見委員【佐世保市障がい者支援事業所連絡協議会】</p>	
<p>○ 若年層や約40歳未満の世代は、学校教育の中で歯科受診や口腔ケアが充実しつつあったことから、歯科受診に違和感や抵抗感が少なく歯科受診に繋がっているが、障がい者(児)世帯は口腔ケアに対する認識が薄く、家族自身も受診していないため治療に至らないことが多いため、家族に対する丁寧なアプローチが重要と思われる。</p> <p>○ 在宅障がい者は、痛みを伴わなければ受診しない、治療で出費したくない、他でお金が必要だからなどと理由をすることが多い。健診や治療の必要性の情報周知方法の検討も必要と考えられる。</p>	
<p>(具体的指標) 障がい者(児)の入所中の施設での定期的な歯科検診実施率の増加</p>	
<p>《委員名》里見委員【佐世保市障がい者支援事業所連絡協議会】</p>	
<p>○ コロナ禍前は、県の巡回診療車を活用しており、ネットで身体固定などの工夫をしていたが、頭まで固定できず、十分な治療には至らなかった。障がいの特性によっては病院側から受診拒否もあるが、何回か通院することによって、近隣の歯科医院と良好な関係ができてきている方もいる。</p> <p>○ 重度障がいでは医師からの指示が理解できず、治療には時間を要する場合も多い。歯科医師に障がいについて理解をしていただくことも大切である。</p>	

(佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会【子ども期及び成人期(第1回)】)

◎次期「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」に向けての課題についてのご意見
各委員から会議での発言及び提出いただいた今後の課題(各論)

<p>基本目標：3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健</p>	<p>(目標) 定期的な口腔保健サービスの推進</p>
<p>(具体的指標) 障がい者(児)の入所中の施設での定期的な歯科検診実施率の増加</p>	
<p>《委員名》里見委員【佐世保市障がい者支援事業所連絡協議会】</p>	
<p>○ 歯科衛生士の配置がある施設では、口腔チェックをおこない、受診勧奨しているが、拒否される方も多く、何度も勧奨をおこなうことで受診するが、継続的な治療には至らない。</p> <p>○ 定期健診や受診に行っていたが、コロナ禍で歯科医院より制限をかけられ、受診に繋がらない入所者もいた。</p> <p>○ 障がい者に対する受診方法については、関わり方や支援方法次第で、ケガをさせたり虐待案件と言われる可能性があるため、支援者は常に慎重・丁寧な対応に心がけ苦慮している。</p>	